

第4節 糖尿病の医療連携体制

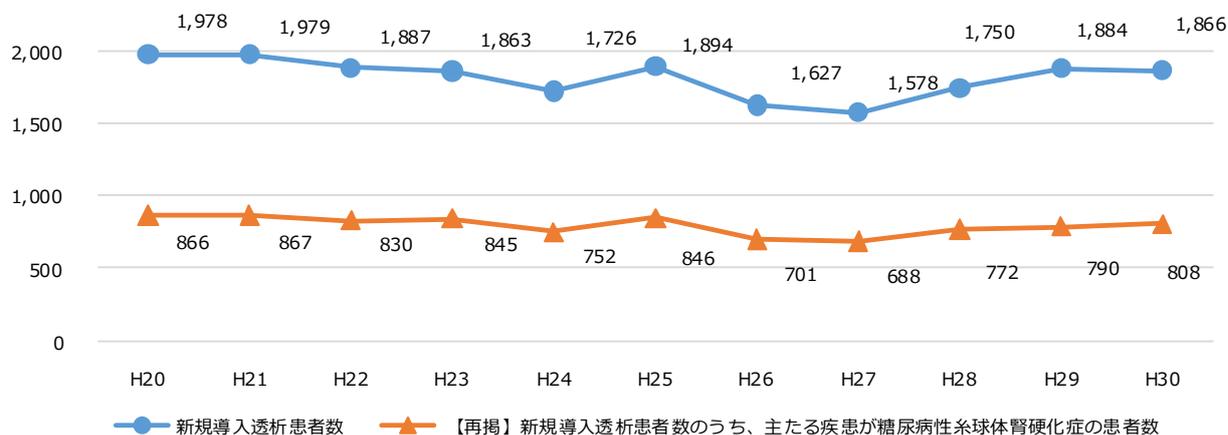
1 現状

(1) 糖尿病性腎症による透析患者数

- 北海道の糖尿病性腎症による新規導入透析患者数（平成30年）は808人で、新規導入透析患者数の43.3%（全国42.3%）を占めています。
- また、糖尿病性腎症の年末透析患者数（平成30年）は6,156人で、年末透析患者数全体の40.4%を占めており、全国（39.0%）と同様に増加しています。^{*1}

【新規導入透析患者数の推移（全道）】

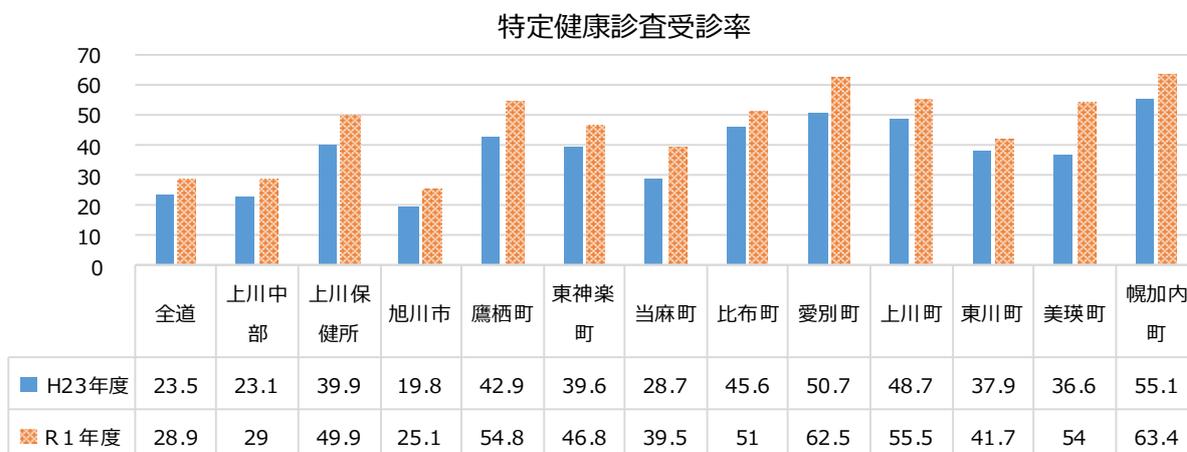
（単位：人）



(2) 健康診断の受診状況^{*2}

- 糖尿病は自覚症状がないまま進行するため、定期的な健診の受診による早期発見、治療することが重要ですが、令和元年度の上川中部圏域における特定健康診査の受診率は29.0%で、全道の28.9%とほぼ同じ状況です。
- また、令和元年度特定健康診査における内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）該当者の割合は、18.1%（全道18.7%）、内臓脂肪症候群予備群の割合は、10.3%（全道10.8%）となっています。
- 平成29年度特定健診結果のHbA1c^{*3}値では、「6.5%以上（受診勧奨判定値）」該当者は、1,342人（7.8%）であり、「5.6%以上6.5%未満（保健指導判定値）」該当者は、8,499人（49.5%）でした。健診受診者の約5割の方が、医療や保健指導を要する状態であると判定されています。

【令和元年度特定健康診査受診率】



*1 社団法人日本透析医学会/統計調査委員会「わが国の慢性透析療法の現況」（平成30年）

*2 特定健診特定保健指導実施結果集計表（令和元年度法定報告速報値）

*3 HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）（NGSP値）：過去1～3ヶ月の血糖値を反映した血糖値のコントロール指標。

(3) 医療機関への受診状況

平成 26 年の患者受療動向調査によると、上川中部圏域における入院受給率は、98.02%と高く、上川北部や富良野、北空知等の地域からの患者の流入に対応しています。

(4) 医療機関の状況**(糖尿病医療機能を担う公表医療機関について)**

- 「インスリン療法を行うことができる」、「糖尿病患者教育（食事療法・運動療法・自己血糖測定）を行うことができる」、「糖尿病による合併症に対する継続的な管理及び指導を行うことができる」のいずれかに該当する公表医療機関は、75 か所です。
- 「糖尿病性網膜症患者に対し、網膜光凝固術が実施できる」、「医療機能が異なる医療機関（診療科）と連携し、糖尿病合併症に対する継続的な管理及び指導を行うことができる」の両方を満たす公表医療機関（眼科）は、17 か所です。
- 公表医療機関を対象とした調査で回答のあった医療機関のうち、「教育入院を実施している」と回答した医療機関は 19 か所（病院 14 か所、診療所 5 か所）です。*¹

2 課題**(1) 予防対策の充実**

- 糖尿病は自覚症状がなく進行する病気であることから、定期的な健診受診が必要であることを道・市町・医療保険者が連携して広く住民に周知するとともに、適切な食生活及び運動習慣により予防や改善ができることの普及啓発が必要です。
- 医療保険者等と連携し、糖尿病の発症リスクがある者に対して、保健指導や医療機関受診を勧め、生活習慣の改善が図られるよう支援が必要です。

(2) 医療連携体制の充実

- 未治療者への受診勧奨や糖尿病患者の継続した疾病管理、合併症予防を推進できるよう、かかりつけ医と専門医療機関、歯科診療所及び医療保険者等による連携体制の整備が必要です。
- 身近な地域の医療機関で安心して人工透析が受けられる体制が必要です。

3 必要な医療機能**(1) 発症予防****(かかりつけ医)**

高血糖、脂質異常症、高血圧、肥満等の危険因子の管理を行います。

(2) 初期・安定期治療**(糖尿病の診断及び生活習慣の改善、良好な血糖コントロールを目指した治療)**

- 75gOGTT*²、HbA1c など糖尿病の評価に必要な検査を行います。
- 食事療法、運動療法及び薬物療法による血糖コントロールを行います。
- シックデイ*³や低血糖時の対応について事前に十分な指導を行います。
- 訪問看護ステーション、歯科診療所、薬局、介護支援専門員等と連携した在宅医療を行います。

* 1 糖尿病治療における地域医療連携状況調査（平成 29 年）

* 2 75gOGTT（Oral glucose tolerance test（経口ブドウ糖負荷試験））：75g のブドウ糖水溶液を投与し、その後の糖の処理能力を調べることやインスリン分泌能を確認するための検査方法の一つ。

* 3 シックデイ：糖尿病患者が感染症に罹患し、発熱、下痢、嘔吐又は食欲不振によって食事ができないとき。体調不良によって糖尿病が悪化しやすい状態となる。

(3) 専門治療

(血糖コントロール不可例の治療、職種連携によるチーム医療の実施)

- 各専門職のチーム（管理栄養士、保健師、看護師、薬剤師等）による食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた教育入院等の集中的な治療（心理問題を含む。）を行います。
- 75gOGTT、HbA1c など糖尿病の評価に必要な検査を行います。
- 糖尿病患者の妊娠への対応について事前に十分な指導を行います。

(4) 急性合併症治療

(糖尿病性緊急症・低血糖など急性増悪時の治療)

糖尿病性緊急症（ケトアシドーシス、高浸透圧高血糖状態等）や低血糖などの急性合併症の治療を24時間体制で実施します。

(5) 慢性合併症治療

(慢性合併症治療を担う専門医療機関)

糖尿病の慢性合併症（糖尿病性腎症、糖尿病網膜症、糖尿病神経障害等）に係る専門的な検査や治療を行います。

(6) 医療機能が異なる医療機関との連携や地域との連携

(かかりつけ医と専門医療を担う医療機関等との連携)

かかりつけ医と専門医療を担う医療機関等との間で、診療情報や治療計画を共有するなどして連携を図ります。

(医療機関と市町・保険者の連携)

医療機関は、市町や保険者から保健指導を行う目的で情報提供等の協力の求めがある場合には、患者の同意を得て必要な協力を行います。

4 数値目標等

指標区分	指標名（単位）	現状値		目標（R5）	現状値の出典 （策定時・見直し時の年次）
		計画策定時	中間見直し時		
体制整備	特定健康診受診率（％）	23.1	29.0	現状より増加	特定健康診査・特定保健指導実施結果集計表〔北海道国民健康保険連合会〕（平成28年・令和元年）
	特定保健指導実施率（％）	58.8	51.7	現状より増加	
実施件数等	糖尿病治療継続者の割合（20歳以上）*	59.8 （全道値）	59.8 （全道値）	現状より増加	健康づくり道民調査（平成28年）
	旭川地区糖尿病地域連携クリティカルパスに登録している医療機関数（か所）	94	92	現状より増加	旭川地区糖尿病地域連携協議会登録数（令和2年）
住民の健康状態等	HbA1c値が6.5以上の者の割合（％）	7.0	7.8	現状より減少	特定健康診査・特定保健指導に関するデータ 〔北海道国民健康保険連合会〕 （生成28年度・平成29年度）
	糖尿病性腎症による新規人工透析導入患者数（人）*	688 （全道値）	808 （全道値）	現状より減少	日本透析医学会調べ「わが国の慢性透析療法の現況」 （平成27年度・平成30年度）

* 「北海道健康増進計画」（平成25年度～令和4年度）と調和を図る指標の目標値については、令和5年度も維持・向上とする。

* 目標における「現状」は、計画策定時の数値を基本とする。

5 数値目標等を達成するために必要な施策

(1) 予防対策の充実

- 道・市町・医療保険者・医療機関が連携して、特定健康診査の意義を広く周知するとともに、特定健康診査・特定保健指導の充実に努めます。
- 糖尿病の発症リスクがある者に対しては、医療保険者等と連携して特定保健指導を実施し、生活習慣の改善が図られるよう支援します。

(2) 医療連携体制の充実

- 発症予防、初期・安定期治療、専門治療、急性期合併症治療、慢性合併症治療の医療機能における医療機関及び関係団体の取組を促進します。
- 道、市町及び医療保険者、医療機関等は、糖尿病患者に対して継続治療の必要性等を啓発し、病状の悪化や合併症予防に努めます。
旭川市と管内9町、医師会等による「旭川圏糖尿病性腎症重症化予防協議会」において策定した「旭川圏糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を活用するなど、糖尿病が重症化するリスクの高い者に対し、医療機関、医療保険者が連携して適切な治療や保健指導を行うことにより重症化予防に努めます。
- 「旭川地区糖尿病地域連携協議会」が中心となり、発症予防から専門治療・慢性合併症治療まで切れ目なく適切な医療が提供できるよう、「糖尿病連携手帳」（日本糖尿病協会発行）等を用いた地域連携クリティカルパスや「たいせつ安心 i 医療ネット」などICTを活用した患者情報共有ネットワークの活用を推進します。また、保健医療福祉圏域連携推進会議等を活用し、患者の受療動向に応じた連携体制の充実を図ります。

6 医療機関等の具体的名称

(糖尿病医療を担う医療機関の公表基準)

北海道医療機能情報公表システムに基づく、医療機能情報の報告内容から、次の①～③の項目のいずれかに該当する医療機関

- ① インスリン療法を行うことができること
- ② 糖尿病患者教育（食事療法・運動療法・自己血糖測定）を行うことができること
- ③ 糖尿病による合併症に対する継続的な管理及び指導を行うことができること

〔眼科〕

ア 糖尿病性網膜症患者に対し、網膜光凝固術が実施できる

イ 医療機能が異なる医療機関（診療科）と連携し、糖尿病合併症に対する継続的な管理及び指導を行うことができる

(医療機関名)

上記に定める公表基準を満たした医療機関（第6章別表参照 * 随時更新）

7 歯科医療機関（病院歯科、歯科診療所）の役割

- 歯周病と糖尿病は相互に影響を及ぼし、歯周病治療で血糖値が改善すると示唆されていることから、医療機関から糖尿病を有する歯周病患者の紹介があった場合、患者が糖尿病手帳を提示した場合など、適切な歯科医療の提供に努めます。
また、糖尿病合併症予防に当たっては、口腔機能及び口腔衛生の維持・管理が重要であることから、糖尿病患者の教育入院や糖尿病教室を実施する医療機関において、歯科医療従事者が歯科保健指導や歯科健康教育を行うなど、医科歯科連携による療養支援体制の構築を目指します。
- 難治性の歯周病患者に対し、糖尿病に伴う易感染状態を疑い、糖尿病・内分泌専門医療を担う適切な医療機関へ紹介するよう努めます。

8 薬局の役割

- 糖尿病の治療継続や合併症など重症化の防止のためには、患者が薬物治療について正しく理解し、適切に服薬等を行うことが重要であることから、薬局において、薬学的管理（薬剤服用歴の管理、服薬状況や副作用の把握等）を行うとともに、おくすり手帳を活用し、患者への適切な服薬指導などに努めます。

- 在宅患者に対しては、薬局において、医療機関や訪問看護ステーション等と連携し、薬学的管理の下、訪問による患者への適切な服薬指導等を行うとともに、在宅医療に必要な医薬品や医療・衛生材料等の供給に努めます。

9 訪問看護ステーションの役割

- 糖尿病及び合併症の治療やそれに伴う諸症状について、セルフコントロールを含め適切な療養行動を維持できるよう患者・家族を支援し、生活の質の向上に努めます。
- 糖尿病の重症化予防や口腔ケア・フットケアなどによる合併症の予防・早期発見に努めるとともに、低血糖等の急性増悪時の対応について、患者・家族及び支援関係者と平常時から連携します。

